

# 大阪府四條畷市・田原の里山のカスミサンショウウオ

太田 理（四條畷市）

カスミサンショウウオが見つかったのは、2000年4月（社）大阪自然環境保全協会主催第18回里山一斉調査の時でした。「田原の里山コース」は1995年第13回調査の時から設定され、初回から保全協会のチーフリーダーを務めている前田弘壽氏が見つめました。以来今年の第27回調査時まで毎年10年間確認をしています。ハイキングコースの道端の直径1.5m ぐらいの小さな水溜りに産卵に来て、時折成体が見られたり、卵のうちの中にウーパールーパーのような幼生が動いているのが見えたりします。カスミサンショウウオは環境省レッドデータリストに絶滅危惧Ⅱ類に記載され、保護を必要とします。

2007年田原の里山の別の場所でカスミサンショウウオの卵が見つかりました。湿地帯で砂地の表面を水が流れている流水路の枯れ枝に引っかかるような形で1つありました。辺りに水溜りのようなところがなく、止む無くそんなところに産卵したのでしょうか。実はその2年前に、その湿地帯の上の方の山の土の中に成体が1匹見つかっていました。地元の中学校の先生で、山土を掘っていたら出てきたとのことで、連絡をもらい写真を撮らせてもらって確認をしました。見つかったのは卵が1つ、成体は1匹ですが、その辺りには他にも生息の可能性があると思っています。

ところがその産卵場所の湿地帯一帯は溪流危険区域で堰堤設置工事をすると情報が入りました。下流方向に公共建造物があり、災害時避難場所に指定できないからとのことです。保全協会の里山調査の打ち合わせ会のときにその話をしましたら、京大教授でカスミサンショウウオが専門の夏原由博理事に相談したらとアドバイスをもらいました。早速連絡をとり、田原にも来て確認してもらいました。さらに、工事主体の大阪府枚方土木事務所に出向いて担当の河川砂防グループの人に会い、カスミサンショウウオの保護を要請しました。四條畷市建設課の人にも同行してもらいました。工事がいつになるかわからないとのことで、一応の対策を話し合い、継続して話し合いを進めることを確認しました。

今年も同じところに産卵に来ていて2つ確認をしました。流水路なので流されてしまうと思い、近くに水溜りを掘り移しました。それでも1つは流されてしまったようですが、水の中に幼生が見られるようになりました。

いよいよ今年度工事を着手するので話し合いを持ちたいと市建設課を通じて連絡が届きました。5月、枚方土木事務所河川砂防グループ（3名）、市建設課（2名）、夏原理事と私（大阪府自然環境保全指導員）とで話し合いを持ちました。工事の図面を見ながら、工事の時期と産卵・孵化・成長の時期の対応を考え、どのようにしていけばよいか考えました。土木事務所側も環境保護については一定の配慮をする姿勢を持っていました。また、6月に2回目の話し合いと現地確認を行い、工事中に入っていれば産卵場所の確保と卵や幼生の移動の仕方などを検討しました。中学校にも働きかけて、カスミサンショウウオの観察や保護についての環境学習に取り組み、府の方もそれに協力することで一致しました。

工事による影響はどうか分かりませんが、カスミサンショウウオが生きて住める環境を維持できるように、地域の子どもたちと努力していきたいと思っています。